



創立昭和46年
(Founded 1971)

JCA

Japan Communication Association (JCA) Newsletter 日本コミュニケーション学会ニュースレター

NEWS

CONTENTS

110 2015.10

学会からのお知らせ 1	7. 支部ニュース19
1. 巻頭言 副会長挨拶 2	支部ニュース：北海道支部19
2. 第45回年次大会報告 3	支部ニュース：東北支部19
3. 慶祝・川島彪秀先生瑞宝章受章 4	支部ニュース：関東支部20
4. 2014年度第3回理事会報告 6	支部ニュース：中部支部20
5. 第45回年次大会総会報告10	支部ニュース：関西支部20
4. 学術局報告12	支部ニュース：中国・四国21
2015年度学会賞報告12	支部ニュース：九州支部21
第46回年次大会発表論文募集14	8. JCA 2015年度役員一覧22
5. 事務局報告16	8. メールアドレス登録のお知らせ23
6. 広報局便り17	9. 編集後記23

日本コミュニケーション学会からのお知らせ

「学会の英語名称変更について」

*Communication Association of Japan (CAJ)*から

*Japan Communication Association (JCA)*に

2015年6月13日に開催された第45回年次大会の学会総会におきまして、総会出席者の満場一致によって、日本コミュニケーション学会の英語名称を変更いたしました。新しい名称は、Japan Communication Association (JCA)です。本学会ではこれ以降、この英語名称を公式に使用します。長年慣れ親しんできたCAJですが、今後はJCAとしてあらたに活動を行って参ります。

今回の変更にあたっては、次のような理由があります。

- 1) 本学会が主目的としている「国内においてコミュニケーション研究に関する理解を広め、本学会の活性化に努めるため」を一層強化し、コミュニケーション学の学問的側面の認知をさらに広げ、学会の新しい姿勢と施策を提示していく契機とする。
- 2) 国際的な連携を目的として、国際コミュニケーション学会(ICA)にアフィリエーション学会として参加することを決定した。2016年には、そのICAが福岡で開催される。そこにおいて、コミュニケーション研究の日本の代表学術団体というアイデンティティーを示すことを目的とする。
- 3) 学会組織のガバナンスと透明性を高め、民主的で開かれた組織運営を行うため、そして会員サービスのさらなる向上のため、いくつかの新しいシステムの改善を行う。
- 4) 新しい英語名称に基づくロゴを作成し、日本コミュニケーション学会の新しいイメージを外部に発信する。

英語名称の変更を機に、学会の新しいイメージを作り、会員のサービス向上とともに、学会内外における積極的な学術交流を図っていききたいと思います。

また以下のスケジュールで、新しいロゴを作成し、2016年早々に公式ロゴとその使用規定をお示しいたします。

- 1) 2015年10月中、デザイン業者の選定とロゴマークのコンセプト決定する
- 2) ロゴの新しいデザインの作成にあたっては、プロジェクトチーム(会長と副会長、各局長6名)によって進め、原案を作成していく。広報局からアイデアの提案をいただき、プロジェクトチームで検討の上決定する。最終案を12月の理事会までに提出する。
- 3) 12月の理事会において、新しいロゴマークを最終決定する
- 4) 2016年2月のニューズレターに、新しいロゴをお披露目する
- 5) 2016年6月の年次大会に合わせて、新しいロゴを使って大会の準備を進める

新しいロゴが決定するまでは、旧ロゴを修正したものを利用しますので、ご利用の際は広報局までご連絡ください。学会会員の皆様のご理解とご協力をお願いすると同時に、学会の新たなスタートと活動の活性化に邁進して参ります。

(日本コミュニケーション学会 事務局長 清宮徹)

巻頭言

学術局の仕事を通して感じたこと

副会長（学術担当） 守崎 誠一（関西大学）



日本コミュニケーション学会では、学術局の仕事を長く担当させていただいており、現在は学術担当の副会長を拝命しています。その間、学術局関係で最も大きな変化としては、ジャーナルの改革がありました。これはひとえに、前ジャーナル担当理事の吉武正樹先生の尽力によるものですが、年に1回「ヒューマン・コミュニケーション研究」と「スピーチ・コミュニケーション教育」が発行されていたものを「日本コミュニケーション研究」に統合した上で、年2回発行へと改革されました。同時期に査読の仕組みも大きく変更され、審査の迅速化と再査読制度の充実が図られました。研究業績を必要とする研究者にとって、自身が投稿した論文の採否が早く伝えられ、掲載までの期間が短く、掲載不可の場合でもどのような点を改善する必要があるのかが分かりやすく伝えられることは、投稿先を選択する上で大変重要な要素だと思います。ですので、今回の一連の改革によって、本学会のジャーナルに投稿したいという研究者が増加することを期待しています。

また、今回の改革とは直接関係ないことですが、本学会のジャーナルが持つ魅力の一つに紙幅の長さがあります。前回の年次大会で実施された「学術局セッション」の中で、話題提供者の内藤伊都子先生も指摘されていましたが、A4で20枚の原稿を投稿できる学会誌は少ないのではないかと思います。近年、コミュニケーション研究の手法が一昔前の量的な調査研究偏重から、質的研究や質と量を組み合わせた混合研究に移行しつつある中で、量的研究のように結果を数値で容易に報告できない研究にとって、本学会誌の十分な紙幅は魅力があると思います。また、同シンポジウムの中で私自身が発言したことです。新たな発見・知見を基にした「研究論文」だけでなく、国際的なジャーナルなどでしばしばみられる先行研究の動向をまとめて、今後の研究の方向を示唆する「展望論文」を本学会のジャーナルにも積極的に投稿していただきたいと考えています。その際、本学会誌の十分な紙幅は、そのような論文を掲載しやすい環境にあるように思います。私自身の反省も込めて述べるのですが、自身が関心を持つ領域については最新の研究動向に注意を向けることが出来ていても、それ以外の領域に関してはなかなか目配りをすることが容易でなかったりします。結果として、多様化・拡大化するコミュニケーション研究の全体像を把握しきれていないという実感があります。そのため、それぞれの領域を専門とする研究者が、質の高い「展望論文」を定期的に寄稿していただければ、さまざまな領域の研究動向を知ることが出来るのではないかと考えます。

最後に、今年度の年次大会についてひとこと申し上げたいと思います。すでに多くの方がご存じのように、今年度は2016年6月にInternational Communication AssociationのAnnual Conventionが九州の福岡で開催予定されており、本学会の年次大会も同時期に同じ福岡での開催を予定しています。共催等はおこないませんが、多くの著名な研究者がICA大会のために来日されることになっていますので、そのような方たちの中から本学会での講演等に協力いただける方がいないか、その可能性を探っていきたいと考えています。また、これを機会に多くの一般の方々にもコミュニケーション学というものを知っていただいて、コミュニケーション研究への理解が広がることを期待しています。

第45回年次大会報告

大会実行委員長 森泉 哲 (南山大学)

第45回年次大会が「コミュニケーションとジャーナリズム」というテーマの下、2015年6月13日・14日に南山大学名古屋キャンパスで開催されました。両日を通じてスタッフも含めると約120名の方々にご参加いただき、無事に大会を終了できましたことは、皆様のご協力のおかげです。感謝申し上げます。

1日目には学術講演会を一般公開して開催し、林香里先生に「ジャーナリズムの危機とコミュニケーション」というタイトルでご講演いただきました。現在のジャーナリズムの危機を救うのはコミュニケーションであるというコミュニケーション研究者が勇気づけられるようなメッセージを送っていただき、会場は大変盛り上がりがありました。その後、林先生を交えてシンポジウムが開催され、五島会長の司会の下、青沼智先生、日高勝之先生に議論に加わっていただき、「コミュニケーションとジャーナリズム」というテーマでそれぞれの切り口から議論を展開していただきました。



シンポジウム

基調講演 林香里先生

この他、研究発表21件、パネルセッション4件が行われました。セッションの終了時刻を過ぎても意見交換が行われる様子があちこちに見られるなど、学術交流が大変活発に行われました。例年、「聞きたいセッションが複数あつて困る」という声や、「せっかく準備してきたのに、聴衆が少なくて残念」という研究発表者の声もありましたので、今回はセッションがあまり重ならないように工夫し配置したつもりです。皆様はどのような感想をお持ちになりましたでしょうか。

パネルセッションでは、学術局セッションとして、「本学会ジャーナル『日本コミュニケーション研究』の未来を語りあう」、企画理事と学術局の合同企画として「日本におけるコミュニケーション学のオーラル・ヒストリー」が開催され、コミュニケーション学を過去から未来という時間軸で考える企画がありました。この他、レトリック研究会、コミュニケーション教育研究会によるパネルがあり、各領域、またその領域を超えて幅と深みのある議論が展開されました。



大会の番外編として食についても盛りあがったように思います。実行委員としても、懇親会ではできるだけ「なごやめし」を食していただこうと、手羽先、みそかつ、きしめん等を提供させていただき、好評であったように思います。おかげで予定していた時間よりもかなり早く食物が尽きてしまいご迷惑をおかけしましたが、その足で名古屋の街へ2次会に向かわれた方も多かったように聞いております。また理事の先生方を中心に全国各地のお土産をご持参いただき、休憩会場には、各地のおみやげが並べられ、食の文化交流ができました。お土産をご持参くださいました先生方、差し入れありがとうございました。

さて、第46回大会は西南学院大学で開催される予定と聞いております。時期を同じにして国際コミュニケーション学会が福岡で開催され、例年以上の盛大な大会になるのではないかと思います。第45回大会でお世話になりました方々に再度お礼を申し上げ、来年度の大会のさらなる成功をお祈り申し上げ、本大会の報告とさせていただきます。ありがとうございました。



慶祝・瑞宝章受章 川島 彪秀 先生

第8代会長（1993～1995）橋本満弘

春夏秋冬、巡りにめぐってこの年の春、日本コミュニケーション学会（CAJ）の創設者、川島彪秀先生が春の叙勲、瑞宝章（Order of the Sacred of Treasure）を受章された事は会員諸氏には既に周知のことでしょう。川島先生は長年に渡る研究、教育、社会的活動、そしてCAJの創立、維持、継承、充実、発展にこれまで多大に尽くされてこられました。この度はここに生みの親であり育ての親である川島先生の名誉ある受章を会員諸氏と共に心底より喜び褒め称え祝福するものです。私事ですすが私は在米中に大学の図書館で Fred Casmir, 及び L.S. Harms 編者による *International Studies of National Speech Education System, Vol.1* (1970)の中に Kawashima 先生と Oxford 両先生の共同執筆による“Speech Education in Japan”を発見、当時はコミュニケーション領域の研究者が希少な時世で、驚きと喜びで帰国したらまず川島先生に会うべく期し、1973年帰国、先生の研究室を訪れたことに始まり、以来2013年3月に西南女学院大学を定年退職、現在はCAJ退会者です。この度、ここに筆を執るに当たり筆者には想起される事が多々あり、その一端をここに合わせてまず記してみたいと思います。今年の学会第45回年次大会を経た現時点において小生には藤野良典師の次の言葉が強く想起されてきます。

花は枝によって 支えられ、
枝は幹によって 支えられ、
幹は根によって 支えられている。
その根は土にかくれて外からは何も見えない。
咲いた花を見て喜ぶならば、咲かせた根元の存在を知れ。

温故知新、CAJの前身は1971年発足した「日本太平洋コミュニケーション学会（日本）」（Communication Association of the Pacific-Japan）で、その会則第1条にこの母体は「国際コミュニケーション学会」（Communication Association of the Pacific-International）と記されているのも周知の方もいるでしょう。下記は当時の石井 敏編集長、後の第2代、第4代会長によるCAPニュース第1号、CAP News Bulletin (Spring,1975)に記されている“CAPのあゆみ”の一部です。

1970年夏の第3回国際コミュニケーション会議の終了後ドナルド・W・クロフ、川島彪秀、ジュン・ヤマダなど国際会議の主催者数名が東京の銀座の東急ホテルで会合し、1969年と1970年の2回に渡って行われた東京での国際会議の成果が語られた際に、太平洋全領域の国々のコミュニケーションの専門家や興味を持つ者が集まって組織を作れないかの問題が話し合われた。その具体策について米国と日本双方で検討が加えられ、1971年CAPは米国と日本の双方で誕生した。

これは1969年そして1970年に東京で開催されたコミュニケーション国際会議がその契機となり、米国太平洋コミュニケーション学会、日本太平洋コミュニケーション学会の両者で国際太平洋コミュニケーション学会（Communication Association of the Pacific-International）が組織化され、会長はドナルド・W・クロフ、副会長そして日本会長は川島彪秀各先生であった。1971年に発足した手許のCAP（Communication Association of the Pacific, Japan）の会員名簿（1974年現在）には個人会員が関東支部40人、中部支部13人、関西支部11人、九州支部29人の記録があります。その後、国際太平洋コミュニケーション学会が1983年にWorld Communication Associationと改称、クロフ会長が日本太平洋コミュニケ

ーション学会をこの World Communication Association の中に編成、解消する方針に対し、1985年6月、当時、第3代平井一弘学会長の時、片山 博大会実行委員長の下で日本太平洋学会 (CAP) での第15回年次大会 (会場：日本大学会館) の開催、その総会で熱情ある討議、審議の結果、学会名を日本コミュニケーション学会 (Communication Association of Japan, CAJ) と満場一致で採択されたのでした。そしてこの学会新名称で開催されたのが九州は熊本県八代で川島大会実行委員長による CAJ 第16回年次大会 (1986年6月) でした。

後年、札幌大学での第25回年次大会の際に赤坂和雄大会委員長 (第10代会長) による企画のもと川島先生と小生の対談が実施されその流れの中で川島先生は“日本コミュニケーション学会になったのは良かったと思いますよ。1983年に国際太平洋コミュニケーションを WCA、つまり世界コミュニケーション学会とするという発案があった時に日本は加わらない、この際、独立独歩でいくんだと、そこで日本太平洋コミュニケーション学会を日本コミュニケーション学会として発足するという事を理事会でお決め頂いたのは非常に良かったと思います。これは1985年でしたね”(『25周年記念対談—日本コミュニケーション学会25年をかえりみて』) と語られていました。

更に会員諸氏には前記の記念誌に見るこの記念対談記録から温和な人柄の川島先生の声が聞こえてくるでしょう。多面的な話題が展開する中で、これまで“学会そのものの機構を充実して下さったのは石井先生をはじめとして平井先生 (第3代、9代会長) もその一人ですし、それからパワーズ先生 (第5代会長)、近江先生 (第6代、12代会長)、それから現会長<橋本> (第8代会長) も良くやって下さっていますね。本学会が非常にいい会長先生方に恵まれているということがあると思います。”更には“学者はおごり高ぶらず、いつまでも謙虚に学ぶということが大切です。そういう意味で日本製の研究者がたくさんでてくることを私は期待しているんですね。そして最後にこの学会の伝統は役員、理事会もそうですけど、非常に仲が良いですよ。いがみ合ったり、蹴落としたりということは絶対ないのですから、その良さをずっと持ち続けていって欲しいと思います”との川島先生の言葉は筆者自身にとっても同感で北出先生 (第11代会長)、また久米先生など多くの方々、ここに師岡淳也先生の言葉を借りれば、言わば学会の“第一世代”の方々にはこれまで献身的な努力をなされてきた川島先生と共有、共鳴する実感でしょう。この筆者にはどこか内奥であの詩の一端が想起されるようです。“過去、現在、未来、すべては、真心にこめたる招きに応じて、或者は遠くから寄り会う客人のごとく、組み合わせられた調和となって現われた”(W. ワーズワース) とも実感するからです。

また学会史上の大きな出来事ですが、川島先生が更に第7代会長 (1991-1993) を担われた際には第16期日本学術会議 (文学・語学領域、行動科学領域) への登録学会に向けて献身的な努力、そしてその実現 (1993年9月3日付) が認められたことが忘れられません。1993年には会員諸氏によるコミュニケーション基本図書 (全3巻、桐原書店)、更に2000年には学会創立30周年記念論文集 (全2巻、三省堂) が出版されたのも周知のことでしょう。また会員諸氏は近年の事です、支部創立記念誌の発行は周知の事でしょう。即ち、『九州支部20周年記念誌』(2014年10月発行)、また『東北支部20周年記念誌』(2013年6月発行) の二誌です。各誌にはこれまでの学会会長、各支部長による学会情報が披瀝されています。是非とも入手され通読されることをお勧めします。ここに既述の事柄は CAJ のほんの一端で、小生にとってはこれまで学会の一連の動向は次の表現、“イギリス人は歩きながら考える。フランス人は考えた後で走り出す。そしてスペイン人は走ってしまった後で考える”を時として耳にするが如く、この言葉は本学会の生みの親、川島先生の献身的、熱情なお働き、そして今日まで後継者である会員諸氏と共にこの三者の歩み、そして走りや同時並行しての活動を精力的に進めて来たと言えるでしょう。

古くは「日本たいむす」(明治18年9月18日) の見出しに「是からの時代には英語英文学が必要」と見られるが、同様に現今の日本社会に於いては改めて学際的研究領域を網羅するコミュニケーション研究、教育に立脚した学究的関心を持つ有識者の学術グループである日本コミュニケーション学会の会員諸氏と共に生みの親、育ての親である川島彪秀先生に改めて心底から深く感謝、そして付言するまでもなく共に今後の発展を期するものです。(2015年6月 記)

2014年度 第3回理事会報告

日 時：2015年6月12日(金) 15時～17時

会 場：南山大学L棟9階910号室

出席者：五島、青沼、守崎、清宮、高井、鳥越、吉武、坂井、野中、森泉、高永、小山、宮原、長谷川、川内、綾部、伊佐、森口(18名)

欠席連絡：藤巻、丸山、ライネルト

【報告事項】

【1】会長挨拶

五島会長から、年次大会への南山大学からの支援に感謝し、開催まで入念に準備をしていただいた大会実行委員長および委員会にお礼を述べた。また、メールを通じて理事から様々な意見が出されたことに感謝した。大会のテーマであるジャーナリズムは身近な領域であるにもかかわらず、学会として意識してこなかったが、今回の講演やシンポジウムを楽しみにしており、明日からの2日間が盛會になることを期待するとの付言があった。

【2】報告事項

1. 第45回年次大会関係報告(森泉)

- ・大会準備は滞りなく進んでいる。
- ・3月からの変更としては、オーラルヒストリーの企画があったが、久米先生が体調不良のため辞退された。オーラルヒストリーの重要性和アーカイブについて師岡先生、太平洋コミュニケーション学会の若手セッションの設立について宮原先生から説明していただく。プログラムは間に合わなかったため、当日、資料を配布する。
- ・年次大会2日目の発表が1件キャンセルになった。

2. 各局および担当理事報告

1. 事務局(清宮・高井・鳥越・森口)

(1)入退会者および会費納入報告(高井)

- ・2015年6月1日現在、一般会員427名、学生会員8名であり、入会者11名、退会者6名である。
- ・各支部会員数：北海道=正会員27名。東北=正会員22名。関東=正会員177名、学生会員2名。中部=正会員44名。関西=正会員79名。中国・四国=正会員20名、学生会員1名。九州=正会員50名、学生会員5名。海外=正会員9名。

(2)英語名称の変更について(清宮)

- ・これまでの議論とメール投票による多数決の結果、本学会の英語名称を、Japan Communication Associationとすることが報告された。
- ・英語名称の変更は会則の変更になるので、総会の3分の2の採決が必要になる。手順としては、英語名称の変更を提案し、総会出席者の意見を聞いた後に、会則変更の採決という形をとる。

2. 広報局(高永・小山・今井)

(1)ニューズレターの発行(小山)

- ・ニューズレター109号を発行した。
- ・次号(110号)は、8月下旬に原稿を依頼し、9月初旬に締切の予定である。

・書評や教科書の紹介をお願いしたい。

(2)公開シンポジウムの広報について (小山)

・5月中旬に関連学会に通知を行った。

(3)年次大会プログラムの広告・展示企業について (高永)

・広告協力はプログラム掲載の通り、展示は5社の予定である。

(4)Web 関連 (今井)

- ・学会誌への投稿案内を掲載した。
- ・年次大会のプログラムとチラシを掲載した。
- ・ニューズレター最新号 109 号を掲載した。

3. 学術局 (吉武・坂井・野中・森泉)

(1)ジャーナル関連 (坂井)

- ・『日本コミュニケーション研究』第 43 巻第 2 号を発行した。
- ・第 44 巻第 1 号に 7 本の応募があった。査読の結果、条件付き掲載可 1 本、掲載不可 6 本となった。
- ・第 2 号の投稿締め切りは 7 月 31 日である。
- ・1 年前に不可だった論文の再投稿締め切りは 6 月 13 日である。

(2)学会賞関連 (吉武)

- ・書籍(教科書・啓蒙書)の部に 3 件、論文の部に 2 件の応募があった。審査の結果は以下の通りである。
- >書籍の部 (研究書)・学会賞:日高勝之氏『昭和ノスタルジアとは何か: 記憶とラディカル・デモクラシーのメディア学』
- >書籍の部 (研究書)・奨励賞:末田清子氏『Negotiating Multiple Identities: Shame and Pride among Japanese returnees』
- >論文の部・奨励賞: 埴幸枝氏「映画における障害表象—コミュニケーションの問題として描写される障害」

4. 各担当理事

(1)研究会

- ・コミュニケーション教育 (吉武)
これまでのラウンドテーブルを振り返り、特別企画を立てて、ジャーナルの原稿を依頼しようと考えている。

(2)海外渉外 (宮原)

- ・5月にICAの理事会に出席した際、協力の要請があった。後ほど審議にかけたい。

【3】支部報告

1. 北海道 (長谷川)

- ・5月にニューズレターを発行した。
- ・11月7日(土)に藤女子大学で支部研究大会を予定している。
- ・総会時期を11月から7月に変更し、支部研究大会・支部研究会と併せて支部会員の集会イベントを年3回とした。

2. 東北 (川内)

- ・昨年9月と今年の2月にニューズレターを発行した。
- ・11月28日(土)に盛岡市の「アイーナ」(いわて県民情報交流センター)で支部研究大会を予定している。

3. 関東 (青沼)

- ・3月に研究会を実施した。
 - ・支部長が小西先生に変更となる予定である。
4. 中部 (森泉)
- ・3月にニューズレターを発行した。
 - ・12月19日(土)に支部大会を予定している。
5. 関西 (守崎)
- ・3月21日(土)に京都ノートルダム女子大学で開催した。
 - ・11月7日(土)に支部研究会を予定しているが、詳細は未定である。
6. 中国・四国 (高永)
- ・12月12日(土)に福山大学で、リメディアル教育をテーマとして、支部大会を予定している。
7. 九州 (伊佐)
- ・支部紀要に8本の投稿があり、現在審査中である。
 - ・新役員の人事が決定し、支部長は国際基督教大学の池田理知子先生に決まった。
 - ・10月3日(土)に熊本学園大学水俣学現地研究センター(水俣市)で、「環境問題とコミュニケーション」をテーマとして、支部大会を予定している。

【審議事項】

【1】 2014年度決算案 (鳥越)

(1) 収入の部

- ・年会費は、昨年とほぼ同じであった。備考の数字は会員数ではなく、支払った人数を示す。
- ・ジャーナル売り上げは前回と変わっていない。
- ・年次大会では、沖縄コンベンションビューローから助成金があった。
- ・電子図書館サービス関連の収入は、振り込みが6月になるため、現時点ではゼロになっている。

(2) 支出の部

- ・監査からジャーナル発行部数が多いのではないかという指摘があった。
- ・ジャーナルは部数を減らしても費用に変化はなく、ページ数で決まるはずである。(吉武)
- ・学会支援機構での保管料もかかるので、そちらも調べてみることにする。

【2】 2015年度予算案 (鳥越)

(1) 収入の部

- ・年会費は昨年と同じ金額を計上している。
- ・年次大会では、南山大学からの助成金を計上している。

(2) 支出の部

- ・ジャーナル発行費は、現状に応じて増額している。
- ・ニューズレター費は、本来は電子版になって印刷費が不要になるが、電子版の作成および維持の費用として計上している。
- ・年次大会関係は、印刷費・人件費・ポスター制作費を現状に応じて増額している。
- ・予備費のその他の項目に、ICA アフィリエイト費およびロゴデザイン費を計上している。ICA 関係が50,000円、ロ

ゴデザインと HP 外注が 150,000 円、HP ソフトの更新が 26,000 円ほどかかるので、それらを入れて修正したものを総会で用意する。

【3】 人事について (五島)

鳥越千絵副事務局長、森口稔副事務局長、綾部関東支部長、伊佐九州支部長が任期満了に伴い退任、吉武学術局長が都合により退任することが承認された。高井学術局長、菅家副事務局長、松島副事務局長、小西関東支部長、池田九州支部長、鳥越幹事が就任することが承認された。

【4】 第 46 回年次大会関係

2016 年 6 月 11-12 日に、福岡の西南学院大学で開催を予定している。実行委員はまだ構成されておらず、テーマは未定であり、今後、学術局で検討する予定である。

【5】 第 46 回年次大会での ICA との関連 (宮原)

1. 第 46 回年次大会と同時期に福岡で開催される ICA の年次大会とは、当初、共催行事等を行う予定はなかった。しかしながら、ICA の理事会に出席した際に、プレコンファランス等も含めて、何らかの交流を行いたいという要請があった。
2. ICA のテーマは Communication with Power なので、JCA のテーマもそれと連携する方向性は考えられる。
3. JAPAN Session のようなものを ICA の中に設けてもらったり、JCA に特別セッションを設けて ICA に来てもらうなどの方法が考えられる。次回の理事会までに具体的な方法を提案する。
4. プレコンファランスは、東京又は関西でお願いすることになると思うので、支部でワーキンググループを作るなどして、協力してもらいたい。ただ、場所だけを提供すれば、ICA のほうで進めるという可能性もある。
5. KDDI が国際会議の助成金を出している。国内の大学がその窓口となって、ICA に費用を出せば、国内協力団体として、JCA の名前が載るはずである。
6. ICA のアフィリエイトになるためには、会則を英訳する必要がある。高井先生のところで院生を使って翻訳してもらうので、その費用を確保しておく。

【6】 各局および担当理事

1. 事務局

- (1) 会計担当および口座代表者が交代することによって、住所が変更され、口座も福岡早良郵便局から博多郵便局に変更になった。
- (2) 英語名称の変更およびそれに伴うロゴの変更について
総会以降、現在の CAJ のロゴマークは使えなくなる。ロゴは発注してから完成まで 3 か月ほどかかるので、それまでは、ジャーナルや HP には、現在のロゴの英語名だけを変更したものを使用する。会員へは、HP や支部 ML で、今月末頃までに連絡し、個別の書面では出さない。HP の URL、支部のアドレス、ジャーナル投稿のアドレスなども caj から jca に変更する必要がある。URL は残しておいて、自動ジャンプを設定することにする。ジャーナルの背表紙から、The は削除する。その他、気が付いたことは、すべて清宮事務局長へ今月末までに連絡する。

【7】 次回理事会開催日時・会場

2015 年 12 月、関西大学・東京キャンパス、または、名古屋大学・東京オフィスにて開催予定。日程は後ほど調整する。

第45回年次大会 総会報告

日 時：2015年6月13日(土) 14時40分～15時40分

1. 総合司会の清宮徹事務局長より、開会式の開始が宣言された。五島幸一会長、開催校の南山大学の中裕史副学長より、歓迎の挨拶が述べられた。
2. 吉武正樹学術局長より、書籍の部(研究書)・学会賞の日高勝之氏(『昭和ノスタルジアとは何か—記憶とラディカル・デモクラシーのメディア学—』)、書籍の部(研究書)・奨励賞の末田清子氏(『Negotiating Multiple Identities: Shame and Pride among Japanese Returnees』)、論文の部・奨励賞の埴幸枝氏(「映画における障害表象—コミュニケーションの問題として描写される障害—」)が紹介され、五島会長より同氏に賞が贈呈された。
3. 兼本円前年度年次大会実行委員長に感謝状を贈る予定であったが、ご欠席のため、後日送付することとした。
4. 森泉哲大会委員長と野中昭彦学術副局長から事務連絡があった。
5. 開会式を終了し、清宮徹事務局長より会員向け総会を開催する旨が宣言された。
6. 花木亨会員(南山大学)が議長に推薦され、拍手で承認された。
7. 花木亨議長より、会則39条では、「会員総数の5分の1以上の出席」が議決の条件であることが確認された。それに基づき、現時点における会員数431名の内、総会出席者50名、委任状73通の合計123名(会員数431名÷5=86名)で、総会が成立したことが確認された。また、森口稔副事務局長の書記就任が、拍手で承認された。
8. 五島幸一会長より、2015年6月1日より発足した新体制、ならびに役員人事案が発表され、拍手で承認された。新任は、高井次郎学術局長、菅家知洋副事務局長、松島綾副事務局長、鳥越千絵監事。
9. 五島幸一会長より、学会英語名称の変更について提案があり、清宮徹事務局長がその提案理由を説明し、「学会の英語名称を現在のThe Communication Association of JapanからJapan Communication Associationに変更し、同時にロゴマークも改訂する」という理事会案を示した。質問はなく、挙手によって全員賛成の意が示されて、採決された(会則変更を伴うため、出席者50名の3分の2以上である32名の賛成が必要)。これにより、学会の英語略称はJCAとなった。またロゴの変更については、2017年2月完成発表を目標とする今後の計画についても説明された。
10. 五島幸一会長より、2014年度事業報告として、今回の年次大会が開催されたことと、『日本コミュニケーション研究』の第43巻の1号と2号の刊行が報告された。2015年度事業計画として、2016年度・第46回年次大会開催地として福岡の西南学院大学(開催日程とテーマは未定)が発表された。
11. 宮原哲渉外担当理事より、来年度に福岡で開催されるICA年次大会のプレコンファレンスを福岡以外で行う可能性があるとの要請があった。
12. 鳥越千絵副事務局長より2014年度決算報告として、以下の点が示された。
 - 1) 収入
 - ①「年会費収入」に関しては、前年度から60,000円増。決算書では、登録会員数からの計算ではなく、納入分を示している。
 - ②「年次大会参加費」内の「大会参加費」と「懇親会参加費」は、ともに予算より増えた。「広告費」は、半頁が8社、1頁が2社あった。「展示費」は、1日だけが2社、2日間展示が3社あった。助成金を、沖縄観光コンベンションビューローから頂いた。
 - ③「雑収入」内の「電子図書館サービス関連」の還元金は、6月下旬振り込みのため決算書には含めていない。

2) 支出

- ①「ジャーナル発行費」に関しては、部数ではなく頁数によって費用が決まるという情報を得ている。
- ②「ニュースレター費」は、106号の印刷費がかかったが、107号から完全電子化のため、費用が削減された。
- ③「ホームページ関係費」としては、HP用のソフト購入のため費用が増えた。
- ④「年次大会関係費」内の「その他」として、トップツアー手数料、バス代、八重山芸能等がかかった。
- ⑤「会議費」内の「理事交通費」に関しては、ほとんどの理事が関東外であるため費用がかかっている。
- ⑥「事務費」内の「事務委託費」は、学会支援機構への業務委託の基本料と学会誌保管料が含まれていて、その費用は例年並みである。
- ⑦「支部活動助成金」に関して、4支部から申請があった。そのうち、北海道支部は、前年度の助成金を今年度に含めているため、2回となっている。
- ⑧「予備費」内の「その他」に、九州支部20周年記念誌関連の費用を含めている。
五十嵐紀子監事より、筒井久美子・監事との厳正な監査の結果、適正な会計処理が行われていることが報告された。上記の内容が、拍手で承認された。

13. 鳥越副事務局長より2015年度予算案として、以下の点が示された。

1) 収入

- ①「年次大会関係費」内の「大会参加費」では、昨年度より10名多い80名を見込んでいる。
- ②「広告費」は、半頁が3社、「展示費」は、2日間展示が3社、1日だけが2社を計上している。
- ③「助成金」は、南山大学からの助成金を計上している。

2) 支出

- ①「ジャーナル発行費」は、毎年上がっているため増額した。
- ②「ニュースレター費」は、今後のための維持費が不明のため確保しておいた。
- ③「年次大会関係費」内の「人件費」は、質の高い学会運営にかかる必要経費として、適切な範囲内で増額した。
- ④「事務費」内の「事務委託費」は、現状に応じて減額した。
- ⑤「予備費」内の「その他」として、ICAのアフィリエーション費やそのために必要な会則などの翻訳費用、また英語名称変更に伴うロゴデザイン費を計上した。

上記の内容が拍手で承認された。

14. 花木亨議長から議事の終了が宣言された。

15. 高永茂広報局長から、電子化されたニュースレターについて、修正すべき点、表紙の写真、書評原稿などを寄せていただきたいという要請があった。

16. 司会の清宮徹事務局長より、総会終了が宣言された。

学術局報告

2015 年度学会賞報告

学会賞：書籍の部（研究書）

日高勝之著『昭和ノスタルジアとは何か—記憶とラディカル・デモクラシーのメディア学—』（世界思想社）は、ラディカル・デモクラシー理論をもとに複数の映画・テレビドキュメンタリーに対する丹念な分析を施し、「昭和ノスタルジア」という現象に潜む政治性を可視化しつつ、動的で闘争的な意味生成プロセスを複眼的に明らかにした優れた著書である。特に日本では、本論考のような映像メディアを論じた記憶研究の学術的論考はさほど多くなく、「昭和ノスタルジア」の無批判的通説に鋭いメスを入れ、「昭和ノスタルジア」の作り手間、作り手と受け手の多元的位相の差異の構造に関する論証を丁寧に積み上げている作法は、本学会におけるメディア研究の先駆的な研究となるだろう。膨大な参考文献のなかに本学会の関連論文が見られないのがやや残念であるものの、その重厚な内容、精密な分析に加え、関連した理論を的確にまとめた概要は本研究分野にさほど明るくない読者にも有益であり、よって本著に対して2014年度の日本コミュニケーション学会「学会賞」を授与することとした。



左から、日高勝之先生と五島会長
(第45回大会総会にて)

奨励賞：書籍の部（研究書）

末田清子著『Negotiating Multiple Identities: Shame and Pride among Japanese returnees』（Springer）は、日本人帰国子女の複層的なアイデンティティについて、特に face（面子）、shame（恥）、pride（プライド）を鍵概念に、10年越しの2回のインタビュー調査から得られたデータをPAC分析という比較的客観性の高い方法で分析・報告した、熱意にあふれた著書である。内容としては特に、帰国子女が日本社会の中で未だに自己の帰国子女と言うfaceが脅かされ、shameとなり、それにより帰国子女というアイデンティティを隠ぺいしているという指摘は、今もなお続く今日的課題を浮き彫りにしている。一方、日本の「帰国子女」研究には長い歴史があり、多くの論稿・書籍がすでに英語でも刊行されていることを考えると新奇性が十分とは言えず、また、最初のインタビューから10年間で、批判的異文化コミュニケーション学派の台頭をはじめ研究が進んでおり、情報の更新の必要性も感じられる。それでもなお、帰国子女という特定の社会的集団に限らず、他集団のコミュニケーション過程への適用可能性も示唆した点は大いに評価されるべきであり、よって本著に対して2014年度の日本コミュニケーション学会「奨励賞」を授与することとした。



右から、末田清子先生と五島会長
(第45回大会総会にて)

奨励賞：論文の部

堀幸枝著「映画における障害表象—コミュニケーションの問題として描写される障害—」（『日本コミュニケーション研究』第43巻2号掲載）は、障害者を描いた映画を取り上げ、通時的な分析を通してその時代に顕在化されている障害概念と映画表象の対応関係について検討した論文である。特に、映画における障害表象と障害概念の関連性を多角的に捉え、時代的推移に着目しながら慎重な記号的分析を施している点は、高く評価できる。一方、多様性の隠蔽やステレオタイプ化されたコミュニケーション観に対する批判自体は常套的といえないことも

あり、むしろ、今後障害をどう理解し、問題の解決の糸口を映画製作者や観客に対してどう示すのかなどに関して、コミュニケーション学から議論が深められるとよかったと思われる。それでもなお、社会的視点から障害の表象を医学的モデルと社会モデルという2項対立の限界をつき、両モデルの共通点であるコミュニケーションの問題として捉えなおした議論は、コミュニケーション研究に対して示唆に富むものであり、よって本論稿に対して2014年度の日本コミュニケーション学会「奨励賞」（論文の部）を授与することとした。



右から、堀幸枝先生と五島会長
(第45回大会総会にて)

ジャーナル投稿について

この5月に『日本コミュニケーション研究』第43巻第2号が無事発行されました。現在は、第44巻第1号の準備が進められ11月末には発行予定となっています。また、第44巻第2号の締め切りが7月末に終了し、7本の論文が投稿されました。こちらは2016年5月末の発行を目指し、査読作業が現在行われています。

今現在は、第45巻1号（2016年11月末発行予定）への投稿論文を募集中です。締め切りは3か月後の2016年1月末日です。是非皆様の研究結果を論文としてご投稿ください。投稿方法は、ワード等で作成されたファイルを指定メールアドレスに添付して送付してください。送付の際には、(1)「論文」、(2)「シノプシス」、(3)「ファイル作成に使用した機種を加えた著者情報」、以上3つのファイルを添付してください。執筆・投稿の詳細は、公式ホームページにある「研究論文集投稿規程」「学会誌執筆要項」を参照してください。

送付の際、ジャーナル専用アドレスに加え、編集委員長のメールアドレスにも「CC:」にて送付してください。メールアドレスは以下の通りです。

To: journal(@をいれる)caj1971.com

CC: jisakai(@をいれる)ed.tokyo-fukushi.ac.jp

上述したメール投稿で受領の返信がない等の不具合、また、ジャーナル投稿に関するその他のお問い合わせは、ジャーナル担当の坂井 (jisakai@ed.tokyo-fukushi.ac.jp) までご連絡下さい。迅速に対応いたします。

学会ジャーナルは年次大会とともに学会の顔です。しかし、前号のNLにも書きましたが、論文投稿数は学会員の数を見ると依然少ない状況にあります。そのためこの6月の年次大会では学術局セッションとして『本学会ジャーナル「日本コミュニケーション研究」の未来を語りあう』が実施されました。本学会ジャーナルの未来について様々な側面から活発な議論が展開され示唆に富んだ改革案がいくつも提示されたのは意味深かったと考えています。その中でも投稿区分を「研究論文」に限定せず、「研究ノート」や「実践報告」などの区分も別途設けるという案などはジャーナル投稿上の実質的検討課題と考えられます。最後に本学会ジャーナルは学会員以外も投稿が可能となっております。学会員の方もその他の方々もぜひ積極的に投稿してください。日本コミュニケーション研究を共に創っていきましょう。

(副学術局長:ジャーナル担当 坂井二郎)

第46回年次大会 発表論文・企画セッション募集

日本コミュニケーション学会は、2016年6月11日(土)・12日(日)に、西南学院大学(福岡市)で第46回年次大会の開催を予定しています。本年度のテーマは「コミュニケーションとパワー」です。このテーマに関連した多数の企画を準備すると同時に、会員の皆様からの研究発表を募集いたします。

また研究発表だけでなく、会員の相互の研究関心と教育実践の質的な向上を共有する「企画セッション」を応募します。形式は、パネルディスカッション、統一テーマの論文発表、ワークショップなど、自由な発想のもと、90分間のセッションを使って、学会のみならず社会に有効な企画をぜひお寄せください。

応募にあたりプログラムに掲載される要旨と大会プロシーディングス出版用の要旨の2種類をご提出ください：

- ① プログラム掲載用要旨：和文800字以内、英文300語以内
- ② プロシーディングス掲載用要旨：和文3000字以内(脚注を含む)、英文1000語以内(脚注を含む)

いずれも、必ずA4版2枚にすべてを収めてください。なお、パネルなどの企画セッションに応募する場合、パネル全体としてそのセッションの概要を800字(プログラム用)と3000字(プロシーディングス用)の要旨に収め、発表者の要旨を別々に含める必要はなくなりました。詳しくは、JCAホームページのプロシーディングス投稿規定を参照ください。

応募の際は、メールの題目/subjectに「JCA submission：氏名」と必ず明記し、担当理事の野中昭彦宛(anonaka(@をを入れる)nakamura-u.ac.jp)まで電子メールでお送りください。応募の際、この手順に従っていない場合、自動的にスパムメールとして処理され、メールが行方不明となることもありますのでご注意ください。応募締め切りは2016年2月19日(金)となりますので、期日には十分にご留意ください。

大会の個人研究発表では、第一筆者(及び発表をおこなう当事者)がJCAの会員であることが規定によって定められています。応募時までにはJCAの会員登録をお済ませいただき、氏名の下に会員番号を表記下さい。また年会費の未納のため、近年、会員資格の失効が発生していますので、あわせてご注意ください。

発表申し込みに関しましては、学会ホームページ(<http://www.caj1971.com/>)でもご覧いただけます。活気に溢れた大会になるよう、積極的に発表申し込みをいただきたく、お願い申し上げます。

Call for Papers for the 46th JCA Annual Convention

The Japan Communication Association is planning to hold its 46th Annual Convention on Saturday, June 11th and Sunday, June 12th, 2016, at Seinan Gakuin University in Fukuoka City. The theme of the Convention will be “Communication and Power.” JCA will be inviting proposals for individual or panel presentations for competitive research papers dealing with any subjects of communication studies. Additionally, we would like to particularly invite a unique and quality session that contributes to the JCA members and activates our membership activities. The format of this theme session may vary depending on the session’s objectives, such as a thematically organized paper session, a panel symposium, or a workshop. We appreciate your proposal that facilitates research activities and teaching practices as well as encourages information sharing beneficial for the JCA members.

Those wishing to propose a paper presentation or a panel discussion should send an e-mail with a word file of the abstract as an attachment to Akihiko Nonaka, Deputy Director of Academic Affairs, at anonaka@nakamura-u.ac.jp by Friday, February 19th, 2016.

We will publish conference proceedings with abstracts. Two forms of abstracts should be submitted:

- (1) For the convention program:
300 words or less in English or 800 characters or less in Japanese
- (2) For the proceedings:
Maximum of 1000 words in English (including foot/endnotes) or
3000 characters in Japanese (including foot/endnotes)

The total volume of abstracts must be limited to 2 pages printed on A4- size paper. Refer to the Submission Guidelines for JCA proceedings, and precisely follow the guidelines. Those who propose a panel or a theme session should submit a session overview of 2 pages maximum; abstracts of individual presenters are unnecessary.

Also, at your submission, please specifically type “JCA submission:[name]” on the subject of your mail. Failure to specify the subject as such may result in identifying your e-mail as a spam so that the mail will automatically be disposed.

The first author of a paper as well as a presenter in the Convention is strictly limited in the JCA members. If these responsible persons don’t have the JCA membership, please join the JCA before submission and indicate the membership number on your paper. We also recommend that you clarify your current status of the membership because it is often lost by not paying the annual fee.

Those of you interested in submitting a proposal, please refer to the JCA homepage (<http://www.caj1971.com/>) for the submission requirements. We look forward to seeing you in Fukuoka!

事務局報告

事務局からのご報告とお願い

1. 会費納入のお願い

年会費の振込用紙を7月にお送りしました。未納の方はお早めにお振込みくださいますようお願い申し上げます。

2. 学生会員・準会員登録申請締め切り

大学院生対象の学生会員、学部生対象の準会員としての登録は、7月末日をもって締め切りました。前年度学生会員または準会員であった方で、新たに登録をされなかった方は自動的に一般会員に切り替えますのでご了承ください。なお、すでに今年度の学生会員または準会員の会費を振り込み済みで、登録をされなかった方には差額を請求させていただきます。

3. 住所等変更届のお願い

住所や所属が変更になった場合には、速やかに学会支援機構までメールまたは葉書でご連絡いただくか、学会ホームページのWeb システム上で変更をお願い致します。パスワードを忘れた場合、生年月日が登録されていれば、ご自身での確認が可能です。パスワードをお忘れになり、かつ、生年月日を登録されていない場合は、生年月日の登録を直接学会支援機構までご依頼ください。なお、年会費の振込用紙での変更届けはできませんので、ご了承ください。

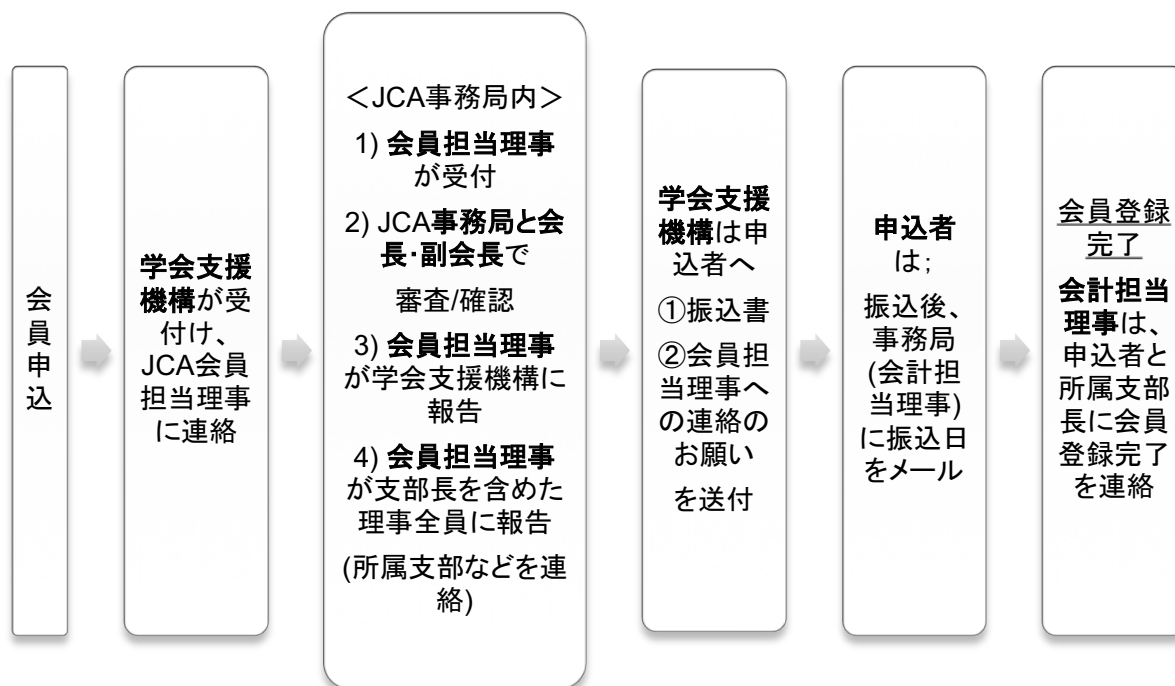
4. ジャーナルバックナンバー、記念図書の購入申し込みと閲覧・複写申し込み

この度JCAのジャーナルが新しくなりましたが、これまで発行されたジャーナルバックナンバーなど学会発刊物をご購入されたい場合は、学会支援機構にお問い合わせください。国立情報学研究所の論文情報ナビゲータCiNii (<http://ci.nii.ac.jp/>) に、著者により公開可とされた論文が掲載されており、閲覧・印刷することができますので、こちらも是非ご利用ください。同サービスを利用せず、複写をご希望の場合は、学会支援機構までお問い合わせください。（住所は22ページに掲載）

5. 新規会員の手続き

JCAでは、新しい学会会員を随時受け付けています。入会しやすいシステムに移行するため、以下のような流れで、新規会員の手続きを行います。とくに、会費納入について迅速に確認するため、新規の申込者には、会費の振込日を会計担当理事にメールにてお知らせいただくようお願い致します。その上でJCA事務局から申込者と所属支部長に、会員登録の完了を連絡するよういたします。ご不明な点がございましたら、事務局までご連絡ください。

皆様のご協力をお願い申し上げます。



広報局便り

1. 第45回年次大会の広報局活動

第45回年次大会は、広告、展示とも多くの企業からご協力をいただくことができました。厚く御礼申し上げます。

- ① プログラムの広告：京都書房、有斐閣、キャンパスサポート西南。
- ② 書籍・教育機材の展示：京都書房、アサノブックス、ピアソン・ジャパン、三修社、くろしお出版。

広報局では、次年度の大会にむけて、引き続き努力を続けます。皆様も、ご紹介いただける企業がございましたら、ぜひ広報局にご推薦・ご連絡ください。

2. 各支部の年次大会等

支部ニュースに詳しい予定が掲載されておりますので、そちらをご一読ください。

3. 広報局からのお知らせ

- ①日本コミュニケーション学会の英語名称が変更になったことに伴い、ニュースレターの表紙デザインを一部変更しました。なお、まだ新しいロゴマークが決まっていませんので、今回は暫定版のロゴマークを使用しています。
- ②同じく英語名称の変更に伴い、日本コミュニケーション学会のHPのデザインを一部変更しました。
- ③事務局と連携して、新しい学会ロゴマークの選定を行なっています。
- ④学術局と連携して、HP掲載コンテンツの拡充ならびにレイアウトの見直しを図っていくことを計画しています。
- ⑤広報局では他学会の情報や教員公募情報なども積極的にアップしていくことにしております。現在も、いくつかの研究学会の年次大会案内や教員公募などの情報をアップしています。ぜひ、ご活用ください。
- ⑥皆様からも、国内だけでなく、海外の学会を含めて関連する講演会や研究会があれば情報として広報局までご一報下さい。ホームページにアップしたいと思います。
- ⑦ホームページ (<http://www.caj1971.com>) は、適宜更新しております。ご意見やご質問を頂ければ幸いです。

(広報局長 高永茂)

JCA ニュースレターへのご寄稿のお願い

日本コミュニケーション学会では、ニュースレターへの会員の皆様のご寄稿を募集しております。以下の要領で奮ってご寄稿ください。

① 著書紹介

会員の皆様の著書を紹介するコーナーです。自薦、他薦を問わず、会員の皆様の著書をご紹介ください。和文で 250～500 字程度の原稿を受け付けております。

② コラム：コミュニケーション教育

コミュニケーション教育に関する実践報告、事例紹介、展望、論考、その他のエッセイを受け付けています。和文で 1000～1500 字程度の原稿を受け付けております。

③ 書評 / 教科書 (テキスト) 紹介

コミュニケーションおよび関連領域の著書に関する書評、および、コミュニケーション関連の教科書 (テキスト) 等の紹介を受け付けております。和文で 1000～1500 字程度の原稿を受け付けております。

④ NL 表紙の写真

ニュースレターの表紙を飾る写真を募集しております。本学会の NL 表紙に相応しい写真がございましたら是非お寄せください。(写真は、会員の皆様ご自身でお撮りになったもの、または著作権をお持ちの写真に限ります。また、写真内容が法令に触れないようご配慮ください。)

支部ニュース

北海道支部

(支部長 長谷川 聡)

- (1) 2015年7月7日(火)に藤女子大学北16条キャンパスで支部総会を開催しました。総会では、まず2014年度の「活動報告」「予算報告」「監査報告」が行われました。その後、長谷川支部長より「日本コミュニケーション学会北海道支部会則(案)」が提案され、一部修正のうえ、了承されました。また、2015年度の「活動計画(案)」と「予算(案)」が了承されました。総会後、安達朗子氏(札幌医科大学研究生)をお招きし、「障がい者と健常者の異文化コミュニケーション」と題した座談会形式のミニ講演会を行いました。目の不自由な女史の鮮烈で真摯な生き様と、彼女を囲む人々との心豊かなコミュニケーションに一同とても感動しました。
- (2) 役員会を7月23日(木)に藤女子大学北16条キャンパスで開催し、「役員の選任と役割分担」「2015年度支部研究大会のテーマ・内容等」「年間活動計画の具体案」「支部役員への交通費の支給」について協議しました。尚、今年度の役員会の構成員は、長谷川聡、足利俊彦、伊藤明美、水島梨紗、山田晃子、目時光紀となりました。
- (3) 2015年度支部大会を11月7日(土)に藤女子大学で開催する予定です。大会テーマは、「コミュニケーション研究の今～CAJからJCA/ICAへ～」("Current Issues and Global Trends in Communication Research ～From CAJ to JCA/ICA～")です。今回の大会では、西南学院大学の宮原哲先生をお招きし、基調講演をしていただくことになっています。
- (4) 2016年3月に大学英語教育学会(JACET)北海道支部と北海道英語教育学会(HELES)と合同で支部研究会を開催する予定です。

東北支部

(支部長 川内 規会)

2015年11月28日(土)「第16回JCA東北支部研究大会(岩手県)」開催のご案内です。
第16回東北支部研究大会を岩手県・盛岡市で開催します。「コミュニケーションと現代社会」をテーマに、研究発表およびシンポジウムを行います。シンポジウムでは「コミュニケーション教育としての海外研修の企画と実行」と題して、2つの支部から、宇治谷映子先生(JCA中部支部・名古屋外国語大学)と森越京子先生(JCA北海道支部・北星学園大学短期大学部)をお呼びし、海外研修の目的・成果・課題などをコミュニケーション教育の観点からお話ししていただく予定です。東北支部会員の方はもちろんのこと、他支部の皆様にも、たくさんご参加いただけることを願っております。

日時：2015年11月28日(土)

12:30 受付、12:50 開会～17:30 閉会予定
(懇親会もあります。)

場所：盛岡市、盛岡駅直結のビル内「アイーナ(いわて県民情報交流センター)」

8階会議室「808」(徒歩4分)


<http://www.aiina.jp/>

テーマ：コミュニケーションと現代社会


参加費：無料

申し込み方法：研究発表をご希望の方は、氏名・所属・連絡先・発表タイトル・要旨(200字～300字程度)を大会実行委員長の小林葉子宛(yokobaya(@を入れる)iwate-u.ac.jp)にご連絡ください。

締め切りは10月30日(金)です。



関東支部



(支部長 小西 卓三)

関東支部では、これまでと同様に年が明けてから研究会を開催する予定です。詳細が決定次第、各支部のメーリングリスト等をつかって広く会員の皆様に周知いたします。関東支部での研究活動を盛り上げていきたいと考えておりますので、よろしくお願いたします。



中部支部



(支部長 藤巻 光浩)

(1) 中部支部では、以下の通り支部大会を開催します。今回は一週間前に報告論文を発表し、一つの論文を徹底的に議論する形式を採用します。是非、参加ください。

日時：12月19日(土) 13:00～

場所：愛知淑徳大学星が丘キャンパス 13A 教室(1号館3階)

テーマ：「シティズンシップ教育とコミュニケーション学」

報告論文：

藤巻光浩(静岡県立大学)「科学館としての原子力発電所付設PRセンターにおける科学コミュニケーションとシティズンシップ教育のゆくえ」(仮)

山脇千賀子(文教大学)「異文化間対話と市民性の教育をめぐる」(仮)

福本明子(愛知淑徳大学)「日米の『戦後70年談話』～Conflict Managementの観点からの分析～」(仮)

*懇親会が18:00から近隣の食事処で開催される予定です。参加希望者は、12月12日までに、佐藤良子先生(otasy(@を入れる)vega.aichi-u.ac.jp)に連絡ください。

*それぞれの報告に、青沼智先生(津田塾大学)による応答があります。

*事前にペーパーを配布(ウェブサイトで大会前にダウンロードできるようにします。準備が整いましたら、ML等でお知らせします。)

(2) 支部発行のニューズレターに書評欄があるのはご存じかと思います。今年度の書評欄も、みなさまからの投稿を募集しております。コミュニケーションに関する書籍を是非、ご紹介ください。原稿の締め切りは、1月末日です。受付窓口は、平田亜紀先生です(送付先：akih1220(@を入れる)asu.aasa.ac.jp)。



関西支部



(支部長 守崎 誠一)

関西支部では、秋季研究会を平成27年11月7日(土)に開催いたします。開催場所やテーマなどについては、現在検討中です。詳細が決定次第、支部のホームページにプログラムを掲載するとともに、各支部のメーリングリスト等を通じて広く会員の皆様に周知いたします。



(支部長 Rudolf Reinelt)

中国四国支部では、第18回支部大会を下記の通り開催いたします。

日時：平成27年12月12日(土)

場所：福山大学 宮地茂記念館

テーマ：「コミュニケーション」および「リメディアル」の教育並びに研究に関すること

参加費：無料

発表者の募集も随時受け付けております。中国四国支部のメンバーに限らず、全国の会員の皆様に申し込んでいただきたいと思います。

申し込み締め切り：11月15日(日)

必要事項：メールに題目と和文または英文の要約を添付し、件名(CAJcs15)で送ってください。

申し込み先：

reinelt.rudolf.my(@を入れる)ehime-u.ac.jp

なお、今大会における詳しい案内を含むJCA中国四国支部ニュースレターを後日発行予定です。

過去の支部大会の発表資料は、

<http://web.iess.ehime-u.ac.jp/katudouhoukoku.html>に掲載されています。ぜひご覧ください。



(支部長 池田 理知子)

九州支部では、第22回支部大会を10月3日(土)に熊本県水俣市の熊本学園大学水俣学現地研究センターと水俣市公民館で開催いたします。大会テーマは「環境問題とコミュニケーション」です。午前中は研究発表、午後はエコネットみなまた代表理事で元チッソ第

一労組委員長の山下善寛氏に「水俣の環境問題と健康被害」というテーマで、一般参加者も交えての公開講演をしていただきます。その後、水俣市立水俣病資料館での見学および語り部の講話への参加、山下氏の案内による水俣ツアーと続きます。また、翌日の午前中も水俣病歴史考証館の見学や水俣病発生の激基地の訪問といったツアーを行います。大会の様子については、次号でご報告したいと思います。

支部紀要『九州コミュニケーション研究』(第13号)に関しては、10月末の発行に向けて作業を進めているところです。前回大会での基調講演やシンポジウムの内容を含む充実したものとなるはずですので、ご期待ください。

日本コミュニケーション学会 2015年度 役員一覧

(2015年6月1日～2016年5月31日)

会長	五島 幸一	愛知淑徳大学
副会長 (総務担当)	青沼 智	津田塾大学
副会長 (学術担当)	守崎 誠一	関西大学
事務局長	清宮 徹	西南学院大学
副事務局長	菅家 知洋	東海大学
副事務局長	松島 綾	熊本学園大学
学術局長	高井 次郎	名古屋大学
副学術局長 (ジャーナル担当)	坂井 二郎	東京福祉大学
副学術局長 (年次大会等担当)	野中 昭彦	中村学園大学
副学術局長 (年次大会等担当)	森泉 哲	南山大学
広報局長	高永 茂	広島大学
副広報局長 (ニューズレター担当)	小山 哲春	京都ノートルダム女子大学
副広報局長 (ホームページ担当)	今井 達也	南山大学
理事 (企画担当)	丸山 真純	長崎大学
理事 (海外渉外担当)	宮原 哲	西南学院大学
理事 (北海道支部長)	長谷川 聡	北海道医療大学
理事 (東北支部長)	川内 規会	青森県立保健大学
理事 (関東支部長)	小西 卓三	昭和女子大学
理事 (中部支部長)	藤巻 光浩	静岡県立大学
理事 (関西支部長)	守崎 誠一	関西大学
理事 (中国・四国支部長)	ルードルフ・ライネルト	愛媛大学
理事 (九州支部長)	池田 理知子	国際基督教大学
監事	筒井 久美子	立命館アジア太平洋大学
監事	鳥越 千絵	西南学院大学

学会支援機構の連絡先

〒112-0012

東京都文京区大塚 5-3-13 小石川アーバン 4F

一般財団法人 学会支援機構

日本コミュニケーション学会担当

TEL: 03-5981-6011 / Fax: 03-5981-6012

E-mail: office(@をを入れる)asas.or.jp

NLの電子版への完全移行のお知らせと メールアドレス登録のお願い

日本コミュニケーション学会 広報局

日本コミュニケーション学会ニュースレターは永きにわたり紙媒体でお届けして参りましたが、107号より電子版に完全移行いたしました。当面はPDF版をHPに掲載する予定ですが、将来的には学会全体のメーリングリストを構築してのメールマガジンの配信も視野に入れ、さらに検討を続けていきます。つきましては、会員の皆様には、本学会HP（学会支援機構データベース）にてメールアドレスの登録をお願い申し上げます（下記の方法をご覧ください）。今後、NLの配信を含めた学会の広報活動を効率化し、会員の皆様とより情報価値の高いコミュニケーションを取れますよう、ご協力をお願いいたします。

- ① 本学会 HP (<http://www.caj1971.com>) にアクセス
- ② 左側メニュー「会員各種手続き（Membership）」をクリック
- ③ ページ中頃の「各種変更手続き」の下「1 オンラインで Web 登録情報確認・変更、会費残高照会のページ」をクリック
- ④ 会員番号とパスワードを利用してログインし、メールアドレスを登録（変更）して下さい。

* ご登録いただきましたメールアドレスは、学会（学生支援機構）が責任を持って管理し、学会からのお知らせの配信（および、これに係るメーリングリストの構築）以外の目的では使用しません。

- 会員番号は、学会からの郵送物の宛名ラベルの中に印字されています（10桁の番号）
- パスワードをお忘れの場合には、上記④の画面で、「パスワードの問い合わせ」をクリックして手続きを行って下さい。

編集後記

最近大きく「変わった」ものに思いを馳せてみると、東京オリンピックのロゴ（変わったというより白紙に戻ったわけですが）、米国における同性婚に関する憲法解釈、Windows OS、ラグビー日本代表の歴史、そして我が国会での安全保障関連法案成立とその過程における、我々の価値観を含めた様々な「変化」。変化には常に、人の価値観、行動原理、思惑や感情が交差し、ともすれば私たちは変化に対して受け身になりがちですが、むしろ変容過程に積極的に参加することによってこそ、「変化」は「改革、改善、進化」となり得るのかもしれない。日本コミュニケーション学会の英語名称がCAJからJCAへと変わりました。多くの会員の皆さんがこの変化が象徴する変容に能動的に参画され、学会の新しい方向性が拓かれていくことを期待したいと思います。

広報局ニュースレター担当 小山哲春